

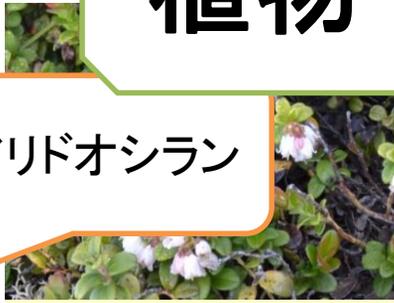
見られる植物 2

植物 P. 46



アルドオシラン

アルドウシラン ラン科
山地～亜高山の針葉樹林内に生える小さなラン。大きくても10cm。茎は地をはって花茎を斜上する。葉が木本のアルドウシに似る。花期7～8月。



コケモモ ツツジ科
高山帯の代表種で岩礫地にはやぶに似る。高さ15cm。花期6～8月。

アルドオシ



ギンロバイ バラ科
亜高山の岩場にまれに生える落葉低木。石灰岩地が多い。高さ0.3～1m。別名ハクロバイ。葉の両面に絹毛が生える。キンロバイとよく似る。花期7～8月。



アオノツガザクラ ツツジ科
雪田周辺の岩礫地に群落をつくる常緑小低木。高さ7～15cm。花期7～8月。南アは雪田が少ない。



タカネコウリンカ キク科
中部地方の亜高山～高山の草地に生える日本固有種。高さ15～40cm。花期7～8月。



キバナシャクナゲ ツツジ科
高山の風衝地やハイマツの林縁などで横にはう。高さ10～20cm。花期6～7月。



イチヨウラン ラン科
山地～亜高山の林下に生える。草丈10～20cm。白花品もある。花期6～7月。



コイチヨウラン ラン科
亜高山の針葉樹林内に生える高さ10～20cmのラン。葉は1枚。花期7～8月。



コフタバラン ラン科
亜高山の針葉樹林に生育。高さ10～20cm。葉は2枚。花期6～8月。

増えてきた帰化植物

荒れ地や河原を主に勢力を伸ばしてきた帰化植物、外国から輸入された植物の輸入も、最近では新しい帰化植物も増えてきました。綺麗な花もありますが、人間にとって困るものも多くあります。

帰化植物 の分類

移入の時期の違い

- A 史前帰化植物；縄文・弥生時代にイネとともに移入。水田雑草として生きていることが多い。イヌタデ・オヒシバなど。
- B 旧帰化植物；江戸時代初期までに、大陸との交流によって日本に来たもの。スイバ・ハコベ・ホトケノザ・ナズナなど。
- C 新帰化植物；江戸時代末期から現代まで。土木工事・飼料・花壇に使い、あるいは人や荷物に付いてやってきたもの。ハリエンジュ・カモガヤ・オオキンケイギクなど。

1 繁殖力が強く、他をおおってしまうもの



アレチウリ ウリ科
1950年代に入ってきた自然帰化植物で、土手や河原を占拠する。



アメリカネナシカズラ
ヒルガオ科
北米原産。多種に寄生する1年草で河原に多い。



オオカナダモ トチカガミ科
南米原産。実験用として輸入したものが逸出。汚水に強い。

2 繁殖力が強く分布域を広げているもの



ブタナ キク科
欧州原産。タンポポに似るが、花茎に葉がない。北沢峠近くまで生育。



ミチタネツケバナ
アブラナ科
欧州原産。ここ20年で拡散した。路傍に限らず、春先どこでも見る。



フサフジウツギ
フジウツギ科
中国原産の有毒植物。園芸種から野生化。学名はブuddleア。



Buddleja davidii
ブuddleア
ダビディイ
フウソウ科
昭和初期北米からの移入で逸出帰化。畑や荒れ地に生育。

(別名) チチブフジウツギ・トウフジウツギ



お寺の大木から滑空しようとするムササビ

滑空しようとする

1 滑空するムササビ

ムササビは「空飛ぶ座布団」とよばれるように、その移動手段は木の上からの滑空です。

滑空する水平距離は飛び出す高さによって異なりますが、普通20~30mは飛びます。ムササビの前足には4本、後ろ足には5本の指があります。それぞれの指にはカギ爪があり、木をかけ登るのに役立っています。そのため、

ムササビがよじ登った樹皮にはひっかき傷が残されています。



スギの皮をひっかいて登る

2 ムササビの生息地

各集落には、昔から地域の信仰を集める神社仏閣があります。こうした場所は、信仰の対象地であるため大きな樹木があり、ムササビが入り込むことができる樹洞もあります。ムササビは、こうした樹洞で子育てをしています。

段丘崖の森林帯もムササビの生息地となっています。社寺林の中でも、こうした樹林に連なる場所では、ムササビの痕跡をよく確認することができます。ムササビが生息していれば、スギの皮がはがれています。